

岩手県肥料商協議会50周年記念式典

去る2月15日に盛岡市民文化ホールにて岩手県肥料商協議会設立50周年の記念式典が盛大に開催された。当会は前身の岩手県肥料商組合として昭和42年11月に発足し、平成11年2月に今の岩手県肥料商協議会に名称変更し今日に至っている。開会に先立ち、当会の会長兼50周年記念事業実行委員長(株)渡嘉商店の渡邊嘉章様より代表の挨拶がなされた。また、来賓として全国肥料商連合会前会長の上杉登様より肥料商の歴史に触れた挨拶がなされた。記念講演として、甲南大学特別客員教授の田中修先生から「植物たちの生き方に学ぶ」のテーマにてご講演を頂いた。田中先生は「ありがたい植物」や「植物のあっぱれな生き方」など植物に関する書籍を複数執筆されている。また、NHKラジオ「子供科学電話相談」や日本テレビ「世界一受けたい授業」など多数出演されている。



田中先生の植物に対する視点はとてもユニークであったので講演内容を一部披露したい。一般的に人間の立場から見た植物の命はとるに足らない小さなものと思われがち。しかし人間は植物たちから多大な恩恵を受けており特に食生活においては植物たちの存在なくしては人間の生存そのものが成り立たないと話された。動物の肉においてもその元をたどれば植物が主体の飼料であり、植物たちが作り出したものに行きつくのだ。どんなに科学が発達した現在でも、人類はまだたった1枚の葉っぱにもかなわない、といった田中先生ならではの独特の視点が紹介され参加者の聞く心を掴んだ。さらに続いて、動物は食べ物を求めて動き回るが植物は光合成によって自分で栄養を作ることが出来るので動く必要がない、とか。動物は生殖を求めて動き回るが、植物は花粉を動物や風に託して運ばせるので動く必要がない、また夏の暑さや冬の寒さにも自分の形を変えて環境に対応している、と植物目線での発想が面白くて思わず納得し共感を得た次第だ。更に講演の締めくくりには、植物は外敵から身を守る独自の防衛策を備えているが、私たち人間も同じであるとし、植物には生きる仕組みだけでなく、見習うことが沢山あると話された。最後に人類と作物の共存・共栄、植物に対して「ありがたい」という感謝の気持ちが必要だということを説かれた。普段より肥料を販売していて作物とは接する機会が多いわけだが、植物とはこのような視点で接していなかっただけに田中先生の話はとても興味を持って聴くことが出来た。

岩手県肥料商協議会は発足以来半世紀にわたって岩手県の農業に貢献してきた。更なる新しい半世紀に向けて岩手県農業と同協議会の益々の発展を祈念致したい。

栃木県トモエ会 実務者研修会

去る2月13日～14日に宇都宮市内ホテルにて栃木県トモエ会実務者研修会が開催された。栃木県トモエ会はトモエ肥連に加盟する県内4特約店がトモエ化成を主体とする拡販を目的として結成されている組織だ。毎年各店の実務者が集い本研修会にてメーカー営業&技術普及担当者と課題を共有し

(次ページ下段へ続く)

21UK会 販売技術対策会議

3月1日当社本店会議室において21UK会販売技術対策会議が行われた。21UK会とは「宇部高機能」の頭文字を取ったエムシー・ファーターコム株式会社宇部工場にて生産されているオキサミドや被覆尿素など機能品を扱う特約店9社が当該肥料の拡販を目的として結成されている組織である。本会の特徴として、該当する機能性商材の販売実績が会員に披露され、技術普及に基づいた販売方法や成功事例などを共有し同社宇部工場が生産する高機能肥料を共に販売していこうという意識で結ばれた活動が継続されている。今回は販売技術対策会議として実務者のリーダーが



集い、昨年実施した試験データの報告と各地域における情報交換を行った。エムシー・ファーターコム株式会社は昨年竣工したオキサミド合成設備の稼働に伴い新たな高機能肥料の開発が進められており、オキサミドの緩効性溶出機能を更に高めたロングタイプのオキサミドが開発検討されている。また各地域においては、会員各社が将来販売したい作物をターゲットとして絞り試験を行う形がスタイルとなっている。試作に供された作物は水稻のほかネギ、レタス、キャベツ、ホウレンソウ等。オキサミドの肥効長期化が求められている作型としては作物の生育期間が長いまた、連続播種・定植となる作型において肥効を更に長くすることにより施肥作業の効率化が実現出来るかどうかという点だ。試験概要は主に現在販売されている既存のオキサミドが配合された化成肥料や被覆尿素入り元肥一発肥料と比較対照する試験が設営されている。メーカー側より昨年の試験報告があり、各店の出席者からは結果に対する意見が交わされた。結果は様々であるが、作物によるが施肥量も削減できそうな感触をつかめたことや肥効の長期化が作物の生育で確認出来る結果が出た。本年度は作物の種類を増やして追跡調査を行い来年の本格上市に向けて情報収集することとなった。オキサミドの肥効長期化された新商品の上市は会員・メーカーの長年の夢であり悲願でもある。国内の肥料消費量が減少するなかで被覆尿素入り肥料等、省力機能がある緩効性肥料は唯一消費が伸びている分野である。その中で被覆尿素肥料のシェア率が高いのだが、新たに環境にやさしい機能も兼ねたセールスポイントを持つ肥料は今後注目されることは間違いないだろう。

(前ページ下段より続く)

活動内容を取り決める。1年かけてデータを取るのだが中間調査には試験圃場まで全員で出向き、生育結果の優劣に関わらず情報を共有しあってレビューし研鑽を重ねている。また、技術データの共有だけではなく地域の農業情勢についても意見交換し問題解決を図るといった結束意識の強い会となっている。今までは水稻が中心となりがちな拡販収集データであったが、近年では県内の畑作物にも目を向けて作物に合った肥培管理方法を模索し地域に合った施肥提案が出るよう経験を積み重ねている。去年はイチゴやナスでのサンソーネの効果的な使用方法を探り有用なデータが取れた。今年度は水稻栽培において省力型の高窒素一発肥料の普及がトレンドとなっているため、他社にないトモエ化成が入った水稻元肥一発肥料の試作品テストを全店で行う予定だ。同会の益々の結束力を生かした取組に期待したい。(東京支店)



3月も中旬になり急に暖かくなりましたね。今年の冬は寒いと思っていましたが、桜の木を見ると蕾がかなり膨らんで開花も近そうです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>